

大磯町における学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の研究・検討に向けた取りまとめについて（案）

大磯町総合教育会議においては、現在、大磯町教育委員会で研究・検討を進めている学校運営協議会制度（以下、「コミュニティ・スクール」という。）について、令和元年度のテーマとして協議・調整を進めてまいりました。様々な意見が出ましたが、協議・調整の結果、下記のとおり6つの視点を持ち、コミュニティ・スクールの導入に向けて取組みを進めていただきたいと思います。

記

1 子どもが主役で顔が見えるコミュニティ・スクール

昨今のインターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などの情報通信手段の普及・多様化により日常生活の利便性が向上する一方で、人と人とのつながりの希薄化や顔が見えない関係が顕著化しつつあります。そのような中で子どもたちが学校や家庭の中だけではなく、地域の活動に参加し顔が見える関係を築くことで、子どもたちが学校と地域との橋渡しとなることが期待できます。

ついては、地域で子どもたちの顔が見える、地域で子どもたちが主役となるようなコミュニティ・スクールを推進することを要望します。

2 安全・安心なコミュニティ・スクール

近年、予想をはるかに超える甚大な自然災害が頻繁に発生しており、町民の皆さんの防災・減災に対する意識は高まっています。そのような状況下で、学校だけではなく保護者を含めた地域の方々にも入り込みやすく、多くの人たちが関心を持てる防災の分野から取り組むことで自ずと役割も決まり、お互いの信頼関係の構築につながることを期待できます。

このような身近な防災や防犯、交通安全など、安全・安心の視点を切り口にコミュニティ・スクールに取り組むことを要望します。

3 様々な体験や経験ができるコミュニティ・スクール

子どもたちに多くの学びの機会を提供するためには、学校という枠組みを超えた地域の力が必要不可欠です。地域の皆さんからの提案による子どもたちへの体験学習は、子どもたちにとっては新鮮でワクワクする体験となり、自然と子どもたちの笑顔につながることを期待でき、同時に地域においては、地域で子どもたちを育てるという意識が芽生えることも期待できます。

子どもたちが大きく成長することを願い、多くのことを体験し経験を積み重ねることができる取組みを積極的に取り入れることを要望します。

4 大磯町独自のコミュニティ・スクール

豊かな自然と先人が遺してくれた歴史や文化が今でも多く存在することが、大磯町の特徴であり大きな魅力でもあります。これらの貴重な資源を生かして進めていくことで、独自性を見出すことができると考えます。そして、子どもの頃から大磯町の素晴らしさにふれることで、例え町外に出ていったとしても大磯町に帰ってきてもらえる町を、コミュニティ・スクールを通じて創り上げていくことも期待できます。また、大磯町の地理的な特性を生かし、学校単位に捉われることなく、幼小中が一体となってコミュニティ・スクールを組み立てていくことを要望します。

5 学校と密接に関わるコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールを円滑に進めていくためには、学校と地域が連携体制を構築することが欠かせません。お互いが共通の認識を持つことが必要であり、役割などがどちらか一方に偏っていても決してスムーズに進めることはできません。そのバランスを取り、自分たちの力で地域を創り上げていくためには、地域コーディネーターの存在が重要な意味を持つと考えます。地域コーディネーターが地域と学校との接着剤として、時には潤滑油として活躍できる環境を整えるとともに、地域コーディネーターを担う人材の育成にも取り組むことを要望します。

6 誰もが知っているコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え地域とともにある学校づくりを進める仕組みです。平成29年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され施行された比較的新しい制度であり、町民の皆さんの認知度はそれほど高くありません。そのため、コミュニティ・スクールという言葉が分かりにくいという声も聴きますので、コミュニティ・スクールの普及に向け、町広報やホームページ等において広く周知を図ることを要望します。

以上

令和2年●月●日

大磯町総合教育会議